令和７年４月１日

令和７年度　東京都立多摩高等学校　学校経営計画

目指す学校

スクール・ミッション	学習・学校行事・部活動や地域連携等を通して、主体的にかつ相互に成長し続けることで、集団への帰属意識や他者への思いやりの心を育み、社会に貢献できる人材を育成します。	
教育目標	ア	知、徳、体の調和のとれた発達を図り、豊かな人間性を培う。
	イ	生涯教育、生涯学習の基礎の確立を図り、社会の変化に主体的に対応できる能力を育てる。
	ウ	社会の一員としての義務と責任を自覚し、主体的に貢献できる人間を育成する。

スクール・ポリシー（教育目標とスクール・ミッションを達成するための基本）理念

グラデュエーション・ポリシー	卒業後の社会との関わりの中で、活躍し続けるために求められる力として、次に示した「社会人基礎力」の３つの能力と１２の能力要素を育成する。 ア　前に踏み出す力：主体性・働きかけ力・実行力 課題に対して一人称で物事を捉え、自ら行動できるようになるため、一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力を養う。 イ　考え抜く力：課題発見力・計画力・創造力 自ら課題に対して疑問をもち、提起し、自律的な思考力を養う。 ウ　チームで働く力：発信力・傾聴力・柔軟力・規律性・情報把握力・ストレスコントロール力 多様な人々との繋がりや協働を生み出す、目標に向けて協力する力を養う。
カリキュラム・ポリシー	ア　生徒が参加する分かる授業を展開し、授業評価を活用して改善する。 イ　スモールステップによる達成感を育み、自学自習の意識を高揚する。 ウ　組織的なキャリア教育を通し、生徒の学力向上、自律的な生活態度の育成及び主体的な進路希望実現を支援する。 エ　学校行事や委員会活動・部活動等を通して、成功体験を積み、他者との関わり方を育てる。 オ　ボランティア活動等の地域貢献活動を通し、社会との関わりを深め、主体的に社会に参画する力を養う。 カ　異文化交流等を通じて、相互理解を深め多様性を尊重する精神を醸成する。 キ　組織的な教育相談体制を整え、いじめや体罰のない明るい学校、安全・安心に生活できる学校として、インクルーシブの精神を養う。 ク　特別支援教育を計画的、組織的に行い、通級による指導体制を充実させ、生徒の個別最適な学びを実現するための教育的な支援を推進する。
アドミッション・ポリシー	ア　自身の成長のために学び続け人の役に立てるよう、進路実現への取組ができる生徒。 イ　部活動・生徒会活動・学校行事・ボランティア活動を通して、学校生活に熱心に取り組むことができ、活動を通して社会性を身に付けることができる生徒。 ウ　社会のルール・マナーを守り他者や地域の信頼を得ることができる生徒。

中期的目標とその達成に向けた方策

領域	中期的目標	方策
学習活動	分かる、できる、学びたくなる授業実践	「できる」実感から生徒の学習への主体性を育成する授業を展開
生活指導	対話から TPO を考えた行動に導く支援	社会人として求められる行動、規範意識が生徒に身に付く支援を実践
進路指導	夢をもたせる―自己の理解・形成・実現	3 年間の進路学習「キャリアデザイン」を生徒の探究活動として展開
特別活動	生徒の自己肯定感を高める居場所づくり	生徒が自己の強みを見いだす、学校に居場所がある環境を整備
健康づくり	安心・安全の視点から心と身体を育成	校内組織の効率化と外部連携を図り、生徒の困り感を早期発見し対応
広報活動	多摩ならできる多摩だからできるの広報	SNS の有効活用で多摩高校の魅力を発信し、生徒の応募エリアを拡大
学校経営	全教職員が課題発見と課題解決に参画	教職員の対話型研修の実施により早期の課題発見と課題解決を推進
組織体制	経営企画室が参画した各委員会の効率化	校内委員会の構成を見直し、実効的に運営し即対応する体制の強化

今年度の重点目標とその達成に向けた具体的な方策―全教職員体制で実践

重点目標	具体的な方策
生徒の支援体制の強化	生徒との対話の重視、校内に生徒の居場所の環境整備と活用への教職員の連携体制
	生徒を認め、受け止める教員の姿勢の定着、生徒が困ったことを伝えられる教員体制構築
	いじめの未然防止、校内通級の整備、退学防止、SOS の出し方、外部連携等の実施と周知
基本的な生活習慣の定着	登校時と始業時の遅刻を放置しない体制、欠席時の家庭連絡、面談週間等相談体制の充実
	TPO を判断する場面の明示、体育的な活動で生徒の体力向上、健康の保持増進
	日常的に社会人としての規範意識の育成、あいさつやマナーへの意識付け、礼儀の定着指導
基礎・基本の学力の定着	学び直しカリキュラム、相互授業観察、研修等でわかる・できる・学びたくなる授業実現
	ふりかえり、動画教材、自己調整学習などできたことを実感させる授業、校内寺子屋活用
	ＩＣＴの利活用、観点別評価の在り方改善、授業充実、生徒理解に向けた校内研修の実施
	スキルアップ推進校、学力向上研究校として校内寺子屋利活用、各種検定受験者数の向上
進路決定率の高水準での維持	生徒の視野を広げ、意欲を引き出す探究活動を取り入れた進路カリキュラムの開発
	多様な大学入学選抜に向けた、放課後や長期休業中の講習や個別の学習支援体制充実
	インターンシップ、合同企業説明会等の実施による地域とのコンソーシアムの継続発展
入学選抜における応募倍率の上昇	新たな SNS の活用により、多摩高校の魅力を通学可能圏内へ発信できる仕組みを開発
	多摩高校の魅力発信を多面的に行うことができるホームページ発信の組織体制の構築
	エリアを広げた中学校への訪問、生徒による学校の魅力発信などを新規で実施
ライフ・ワーク・バランスの実現	学校運営を進めながら年度内でも業務の DX を推進、校務分掌の業務内容の見直し、
	新設する定時退庁日の実効的な運用、育児休業等の取得推進、新規採用者のメンター活用
	産業医による面接や相談しやすい学校体制で教職員の超過勤務縮減の意識の向上
グローバル人材の育成	海外姉妹校と授業内外でのオンライン交流、図書館の活用など読書活動促進、教科横断授業
	ニュージーランド（8 月・9 月）や（9 月）台湾の生徒との国際交流プログラムの実施
	オンライン英会話、実用英語検定、Literas 検定等、グローバルな論理的思考力の育成
服務の厳正	法規法令の遵守、服務事故０の維持、部活動会計処理の適正実施

多摩ならできる　多摩だからできる

わかる　できる
学びたくなる

あったまろう　たま高校～
みんなで創る
こころの居場所～

多摩で貯まる社会人基礎力
開けよう君の多摩手箱

数値目標

	中期的目標	本年度目標	令和６年度	令和５年度
1	学校満足度の肯定回答率	８５％以上	７９．９％	８０．７％
2	授業満足度の肯定回答率	９０％以上	８８．２％	７４．９％
3	生活指導理解度の肯定回答率	８０％以上	７１．７％	６４．９％
4	進路指導満足度の肯定回答率	８０％以上	７８．８％	７５．３％
5	１年間の全校生徒の延べ遅刻回数	６０００回以下	１３９８０回	１２０００回
6	進路決定率	９５％以上	９３．０％	９４．１％
7	体育の授業や運動に取り組む意欲	８５％以上	８５．８％	－　％
8	学校ホームページ更新回数	５００回以上	５０２回	３２１回
9	地域ボランティアの肯定回答率	８０％以上	７３．６％	７６．３％
１０	入学者選抜　推薦応募倍率	１．００倍以上	０．９８倍	１．４０倍
１１	入学者選抜　学力一次応募倍率	１．００倍以上	０．４９倍	０．６９倍